

校種：小学校
学年：第5学年
学校：福島市立三河台小学校（作成者：教諭 野口卓也 令和7年度イノベーション人材育成推進教員）
カリキュラム・マネジメント
○ 総合的な学習の時間を軸にした教科等横断的な実践
○ 地域の人・もの・こととの関わりを重視した実践
実践テーマ
JR福島駅を題材にした総合的な学習の時間「ぼく・わたしたちの町の顔！福島駅大好きプロジェクト」を軸とした教科等横断的な実践
単元配列・活動内容等の概要
4月 JR福島駅について知っていることを出し合い、探究課題を設定する。
5月～6月 JR福島駅へ校外学習に出かけ、駅員の方々にインタビューをしたり、駅内の施設や電車、新幹線の特色を見学したりして、JR福島駅の魅力を見付ける。
7月～8月 これまでの探究を通して得たことを基に「JR福島駅レポート集」を作成する。
9月 「JR福島駅レポート集」をJR福島駅の駅員の方々に見てもらい、レポート集に対する感想とともに、JR福島駅が抱える課題について教えてもらう。
10月～11月 JR福島駅が抱える課題を解決するためのアイデアを考え、準備を行う。
12月 JR福島駅が抱える課題を解決するためのアイデアを実行する。
1月～2月 これまでの活動を振り返り、今後の活動を見通す。
実践に係る人・もの・こと
・ JR福島駅（各施設、店舗、車掌、運転士、イベント）・ふくしまデスティネーションキャンペーン

《実際》

地域

【4月】JR福島駅について知っていることを出し合い、探究課題を設定する。

今年度の総合的な学習の時間で扱うテーマについて、学年全体で話し合う場を設定した。子どもたちからは様々なテーマが挙げられた。その中の一つに、**JR福島駅**が候補に挙げられた。JR福島駅は学区内にあり、子どもたちにとって「旅行に行く際、新幹線に乗る場所」「ゲームセンターや買い物に行く場所」というイメージが強かった。しかし、それ以上のことはほとんど知らないことに気付く子どもの姿が見られた。そこで、自分たちの学区にあるJR福島駅について探究することを通して、**JR福島駅の魅力**を再発見していくことを1年間の探究課題にした。

地域

【5月～6月】JR福島駅へ校外学習に出かけ、JR福島駅の魅力を見付ける。

JR福島駅の駅員の方に連絡を取り、校外学習を実施した。**新幹線の連結の様子や車掌業務の訓練施設**などを見学し、乗客のために様々な工夫や努力が行われていることを感じる子どもの姿が見られた。また、令和8年度に「**ふくしまデスティネーションキャンペーン**」（JRグループと県・市町村・地元の観光事業者などが一体となって、各地域の魅力を発信する観光キャンペーン）を控え、今年度は「プレ・ふくしまデスティネーションキャンペーン」であることについても知ることができた。

学校へ戻り、校外学習を通して分かったことと疑問に思ったことを整理する中で「次は、駅内のお店についても調べたい」「駅で働く人たちにインタビューをしてみたい」「福島デスティネーションキャンペーンに向けて、何か意識していることはあるのかな」などの意見が挙げられた。

2回目の校外学習では、1回目では見られなかった**駅内の店舗や施設**を中心に見学した。**店舗で働くスタッフや駅員の方々**へのインタビューを通して、利用客のために様々な工夫や努力をしていることが分かった、「やっぱりぼくたちのために、いろんなことをやってくれているんだな。感謝しないと！」と、JR福島駅に対する認識の変容を実感している子どもの姿も見られた。

1回目の校外学習(主に「もの・こと」)



整理・分析



2回目の校外学習(主に「人」)



〈JR福島駅に繰り返し関わる中で、JR福島駅で働く人々に目を向け始める子どもたち〉

教科
横断

地域

【7月～8月】これまでの探究を通して得たことを基に「JR 福島駅レポート集」を作成する。

教科横断
国語科「書くこと」

2回の校外学習を通して分かったことを基に、子ども一人一人が「JR福島駅レポート」を作成し、それらをまとめてレポート集を作成した。**乗り物や店舗、そこで働く人々の思い**など、子ども一人一人が自分なりの視点をもってレポートにまとめる姿が見られた。また、国語科「地域の魅力を伝えよう」の学習と関連させて実施した。それにより、「筋道を立てて書く」ことを生かし、小見出しを付けて書き表す子どもの姿が見られた。

地域

【9月】駅員の方々からレポート集の感想をもらうとともに、JR 福島駅の課題を共有する。

子どもたちが作成したレポート集を熟読したJR福島駅の駅員の方々が出河台小学校を訪れ、レポートの感想を子どもたちに話して下さった。また、駅員の方々から**JR福島駅が抱える課題**として、「鉄道利用者の減少」「JR福島駅を鉄道利用以外の目的でも来てもらえる駅にしたいこと」の2点を紹介していただいた。校外学習を通して、JR福島駅の魅力をたくさん見つけた子どもたちは大きな驚きであった。その後、駅員の方々から課題解決のために力を貸してほしいと打診され、子どもたちは「JR福島駅をもっと盛り上げたい！」と、思いを高めた。



〈課題解決の方法を相談する子どもと駅員〉

教科
横断

地域

【10月～11月】JR 福島駅が抱える課題を解決するためのアイデアを考え、準備を行う。

教科横断
外国語科「Welcome to Japan.」

〈外国人にも伝わる駅内放送の原稿を考える子どもたち〉

教科横断
図画工作科「色の濃淡」

〈色の濃淡を工夫して、表したことを巨大アートに表現する子ども〉

JR福島駅が抱える課題の解決に向けチームを編成し、様々なアイデアを考える姿が見られた。これまで各教科等で身に付けた資質・能力を発揮しながら、**JR福島駅でのイベント**実施に向け準備を進めていった。

教科
横断

地域

【12月】JR 福島駅が抱える課題を解決するためのアイデアを実行する。

イベント当日、子どもたちは**JR福島駅を利用しているお客様**を対象に、それぞれが準備してきたアイデアを実施した。英語で駅内放送を入れてマナーの遵守を呼びかけたり、駅で売っている名産品をPRしたり、スタンプラリーを企画して小さい子どもを楽しませたりする姿が見られた。



〈JR福島駅を盛り上げるために、お客様に対して様々なアイデアを実行する子どもたち〉

《児童生徒の変容、資質・能力、形成された概念等》

子どもたちの探究における振り返りの記述（一部抜粋）

- ・ JR福島駅について調べたことで、駅の印象がこれまでとは大きく変わった。特に、利用客のために様々な努力をしていることを知ることができたのはとてもよかった。自分たちの学区にすてきな駅があってとてもうれしい。
- ・ 来年度のデスティネーションキャンペーン本番でも、もう一度今回のようなイベントをして、さらに福島駅を盛り上げていきたいです！

子どもたちはこれまでの探究を通して、JR福島駅に対する認識の変容を自覚するとともに、自分たちの学区にある福島駅に対する愛着を深めていることがうかがえた。